

耐震建物 08 に係る今後の反映事項

■本文

- ・地盤モデルの設定パラメータについては、表層地盤、基礎底面～解放基盤の岩盤、解放基盤以深のそれぞれにおいて、剛性、剛性低下、減衰定数の設定があることから、これらの組合せの中から最終的に4つの因子について検討を実施することの流れについて記載しているが、さらに、これら4因子の結果を踏まえての地盤モデル策定の全体像を追記。
 - 状態変化を踏まえて検討が必要な事項に対する考え方を追記。
 - 4因子に対して、設定根拠との紐づけを明確に記載。
 - 基本地盤モデルの設定結果と各因子の設定結果の紐づけを明確に記載。

■別紙 2-1 岩盤部分の物性値等の設定について

- ・基本モデルに設定する地盤物性のばらつきを考慮した場合の物性値の設定方法及び設定結果
→P60「2.3 岩盤部分の物性値のばらつきの設定方法」及びP68以降「3.1」～「3.12」の各グループの物性値の設定結果に追記
- ・G14について、sf-6断層による地質構造の特徴を踏まえた考察を追加
→P159「3.11 G14における物性値の設定結果」に追記

■別紙 2-2 岩盤部分の剛性の非線形性に係る検討について

- ・特になし。

■別紙 2-3 岩盤部分の減衰定数に係る検討について

①減衰定数に係る各評価の信頼性を確保するためのデータの精査に係る検討・考察の追記 (次頁図青枠参照)

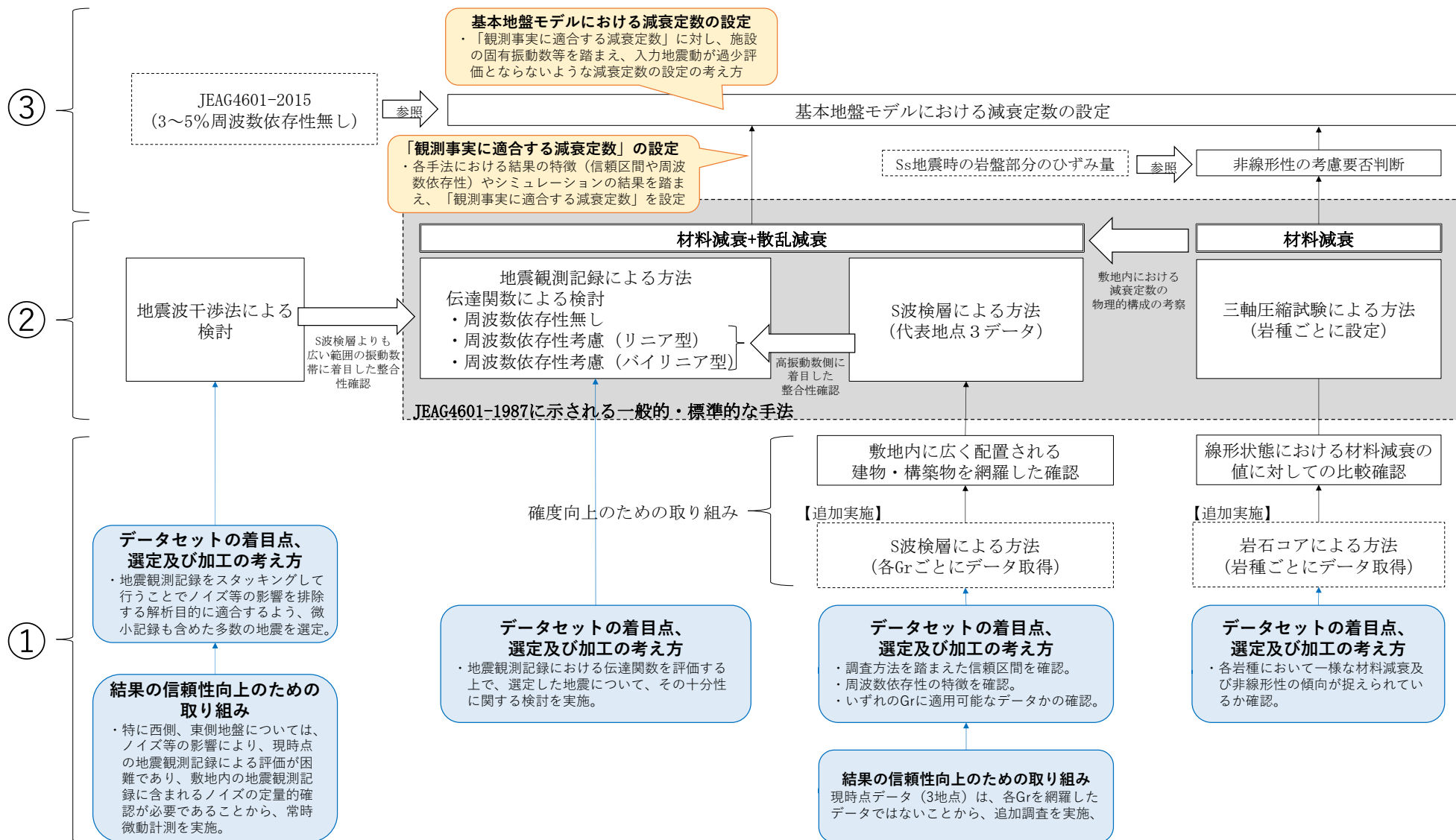
- 各評価に用いるデータセットの着目点、選定及び加工の考え方。
 - 三軸圧縮試験による方法：P299「5. 三軸圧縮試験による方法」に追記
 - S波検層による方法：P310「6. 敷地におけるS波検層による評価」に追記
 - ：追加調査計画について、現状別紙3に記載の内容を別紙2-3に展開
 - 地震観測記録による方法：P318「7.3.1 評価に用いる地震観測記録」に追記
 - 地震波干渉法による方法：P360「7.4 地震波干渉法による検討」に追記

②各評価における根拠の充実

- 地震観測記録を用いた評価結果について、鉛直方向地震動における結果を示す。
- シミュレーション解析について、バイリニアとリニア条件の比較（現状版では、伝達関数に有意な差が無いことを以ってバイリニアのシミュレーション結果は示していない。）
 - P340「(2) 応答スペクトルによる確認」に追記
- シミュレーション解析に用いる地震について、評価に用いた全地震による解析結果及び結果に対する考察。
 - P340「(2) 応答スペクトルによる確認」に追記
- 上記全地震によるシミュレーション解析について、理論値と乖離がある場合には、伝達関数のフィッティング結果や各地震の特徴を踏まえた考察。
 - P370「9.4 シミュレーション解析結果における観測記録との差に関する分析」に追記
- 地震波干渉法による方法について、中央地盤における結果。
 - P360「7.4 地震波干渉法による検討」に追記
- 地震波干渉法による方法について、西側地盤及び東側地盤における観測データの傾向及び結果に対する見込み。
 - P360「7.4 地震波干渉法による検討」に追記

③観測事実との対比による設計に用いる減衰定数設定の考え方の追記（次頁図黄枠参照）

- まずは、各手法におけるアウトプットの特徴（周波数特性等）を踏まえた「観測事実に適合する減衰定数」を設定。
- 上記を踏まえ、重要な施設の固有周期を踏まえ、入力地震動の算定が過小評価とにならないことの観点で、最終的な「基本地盤モデルにおける減衰定数」を設定。
 - P361「8. 基本地盤モデルにおける岩盤部分の減衰定数の設定」に追記



注記 7月31日提出「耐震建物08 耐震設計の基本方針に関する地震応答解析における地盤モデル及び物性値の設定について R18」のうち、P295 第4-1図に追記。
 （追記箇所は青枠及び黄色枠にて示す。）

■別紙 2-4 表層部分の物性値等に係る検討について

①埋戻し土の平均物性値の確度の向上

- 埋戻し土の表層物性値としての分布性状の把握 (GL-20m までの物性値の追加)
- 深度依存特性の確認, ばらつきの確認 (施工年代別の考察)
- 設定した埋戻し土物性値の地盤モデルへの適用性を追記
→P376「2. 埋戻し土の物性に係る検討」に追記

②埋戻し土の追加調査計画 (8月9日提出)

- 施工年代を考慮した PS 検層のエリア提示
- 深度依存を導き出せる調査位置の抽出 (深部埋戻し土実施位置の抽出)
- 調査・計測スケジュール
⇒追加調査計画について、現状別紙 3 に記載の内容を別紙 2-4 に展開
→P376「2. 埋戻し土の物性に係る検討」に追記

③流動化処理土 (グループ B) の動的変形特性の整理 (8月21日提出)

- 流動化処理土のグループ化の根拠 (管理基準の違い)
 - AZ, G13, G14 で施工された流動化処理土グループ B の動的変形特性の整理
 - 上記建屋の表層地盤の考え方
 - ・ 建屋近傍に流動化処理土 B が存在する場合の E+F の設定方法
 - ・ 2次元地盤応答解析による等価あるいは適用すべき地盤モデルの検討)
- P398「3. 流動化処理土の物性に係る検討」に追記

以 上